

『Mind Charging』

第 153 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 11 月 14 日

ゲーテの名言



Man errs as long as he strives.

人間は努力する限り過ちを犯すものだ。

私はこの言葉にプラスして『努力しないことが一番の過ちだ』と考えましたが、おそらく彼の中で努力しないことに対しては問題外であるということなのでしょう。そのくらい『努力』とは私たちが人生を豊かにしていく上で必要不可欠だと思います。

確かに何らかのアクションを起こさなければ『過ち』を犯すことはありません。しかし、先に述べたようにアクション(努力)がなければ成功(成果・成長)もありません。そういう意味では、努力した上での過ちは将来の成功に必要な『データ』となり、それらは自分にとって大きな『武器』となるはずで、目標達成(勝利)に向けて努力(戦う)するためには少しでも武器が多い方が気持ちの面でもプラスに作用するのではないのでしょうか。

誰もが自分の目標を達成したいと考えています。そのための努力も大変ですが必要なものも理解しています。しかし、当たり前ですが目標達成のためなら失敗しても平気だという人はいないと思います。どれだけ難しい目標であっても『ノーマス』で達成したいと思っているはずで、なぜなら『失敗＝悪』というイメージを払拭できないからです。理由としては“叱られる” “馬鹿にされる” など、失敗した時に自分に向けられる『周りの目』への恐怖感でしょう。再挑戦に向けても“今回も失敗すると思われるんじゃないか・・・”と不安になり、再挑戦をすることに躊躇してしまうこともあります。

以前もこのコラムで述べたことがあると思いますが、勇気を出して挑戦している仲間を見守る『温かい目』が必要です。誰もが成功したいと思っているのと同時に誰もが大きな不安と戦っています。もしかしたら不安との戦いばかりで本題が進んでいないこともあると思います。“純粋に”、ひたすらに高め合いながら進んでいけるのは、もしかしたら高校までかもしれません。正智深谷の掲げる『選択・専修』を今一度胸に刻んで積極的に挑戦しましょう！そして、仲間の挑戦を精一杯応援しましょう！

(編集委員：入試広報室 鈴木)

『ファウスト』(独: Faust)はドイツの文人ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテの代表作とされる長編の戯曲。全編を通して韻文で書かれている。『ファウスト』は二部構成で、第一部は 1808 年、第二部はゲーテの死の翌年 1833 年に発表された。

(Wikipedia 参照)